

令和6年度 第1回浜松市幼児教育推進協議会 議事要旨

1 開催日時・開催場所		令和6年5月23日(木)午後3時00分から午後4時30分 浜松市教育委員会イーステージ教育委員会室			
2 委員 ・ 有識者	氏名(敬称略)	所属等	氏名(敬称略)	所属等	
	1 島田 桂吾	学識経験者 静岡大学大学院教育学研究科准教授	8 伊藤 寿美	市立保育所 三方原保育園園長	
	2 山田 佳敬	認定こども園 まつばこども園園長	9 河合 享子	市立小学校 中ノ町小学校校長	
	3 山崎 亜佐美	私立幼稚園 浜松学院大学付属幼稚園園長	10 大橋 美弥	保育園・こども園保護者代表	
	4 竹内 映晴	私立保育所 まつのき保育園園長	11 名倉 哲也	幼稚園保護者代表	
	5 島田 さち子	地域型保育事業所 あいあい保育ルーム園長	12 吉積 慶太	こども家庭部長(委員長)	
	6 鈴木 波穂	認証保育所 ハレルヤ愛児園副園長	13 奥家 章夫	学校教育部長(副委員長)	
	7 恩田 かおり	市立幼稚園 伊平幼稚園園長	14 青島 治道	教育センター所長	
3 主な意見・質問等					
1 幼児教育・保育の質の向上について					
<ul style="list-style-type: none"> ・はますくファイルは、保護者との面談の際、子供の育ちが確認ができ有効である。サイズが小さくなり使いやすくなったと感じる。まずは保護者が手に取ることが大事である。「幼児期に育てたい力」指導資料も活用しているが、若い職員は、10の姿に当てはめることに終わってしまいがちなので、子供の姿を見取り、手立てを探り、育ちにつながる支援を見出すことができるようにしたい。 ・交代制で様々な働き方の職員がいる保育園では、保育について共有することが大切だと考えている。「幼児期に育てたい力」指導資料を基に共通理解を図ったり、パート職員も含め交代で視聴できるオンデマンド研修を受けたりすることで、学びが広がる。職員間のコミュニケーションを大切に、子供の姿を共有できるようにしたい。 ・「幼児期に育てたい力」指導資料の活用方法を模索している。アニメーションのような動画があると、若い人が見るきっかけになるのではないかと。 ・自身の子育てを振り返ると、母子手帳、はますくファイル、保育園のノート等があり、はますくファイルを見る余裕がなかった。スマホでの利用等、活用方法を検討していけるとよいと感じている。 ・防災に関して、毎月の訓練後には、どうしたら子供たちの命を守ることができるのか具体的に話をしている。また、リンゴの角切で亡くなった事件があった時には、職員に周知して対応の連携を図った。事故が起きた時は保育を振り返るよい機会である。市には現場の必要感に応じた研修を望む。 					
(2) (仮称)浜松市版幼小接続期の教育・保育実践の参考資料について					
<ul style="list-style-type: none"> ・写真が入っていて活動が見やすい。学校側は単元名から検索しやすいが、園側からはどうなのか、つながりの部分で向かっていく先が分かるように、活用する側への周知や意識を高める必要がある。 ・紙媒体があることで、様々な年代の職員が使いやすいと感じる。自園のカリキュラムと関連付けて考えていきたい。 ・乳幼児(0.1.2歳児)保育にとっても、3歳児や小学校とのつながりを意識していくために有効活用できると感じる。 ・園と小学校の先生が、同じ子供の姿を共有して語り合い、学び合う研修の場をもてるとよい。 ・作り上げたよい資料を各園にどこまで周知できるかが課題だと感じる。どのくらい浸透しているか、伝わっているのか検証してみるのもよい。 ・保護者の方にも、この資料等を活用し、園と小学校の活動が繋がっていることを知っていただける機会があるとよい。 ・小学校側は、単元と遊びのつながりが分かりやすくなっているが、園側は、小学校の単元では何を願っているのか、もう少し見えてるとよいのではないだろうか。身に付けることが分かると具体的に見えてくる。接続を考えると、園と小学校の両方から作成するとよく、表記の仕方を検討し、次のステップに進んでいかなければいけない。 ・たとえ、園と小学校で同じ活動(たとえば朝顔の栽培)をしても、ねらいは異なる。その情報が入っていれば、根拠が明確になり、園独自で主体的に判断し選択することができる。 ・園ごと保育活動内容は異なる。この資料を土台とし、園のやり方に応じて活用できることを望む。小学校の教育を知った上で、自園の保育の説明ができ、自園の特色や方針、やり方の確認ができるとよい。ただ、遊んでいるのではなく、教育につながっていることを説明できるようにしたい。 ・汎用性があり、各園の特色によって活用できる広がりがあるものがよい。活用しやすいように整え研修で広めたい。 					
【まとめ】島田先生より					
<ul style="list-style-type: none"> ・本資料は、互いのカリキュラムを見直すツールと感じる。各園・小学校それぞれに特色があり多様性に富んでいる。完璧にこなそうとすると、資料作成の意図から離れてしまう。この通りにやろうとするのではなく、余白を残すことが重要である。どんな力が育っているのかきちんと説明できるようでありたい。 ・園と小学校が相互理解し、それぞれ違うことを認めた上で、アップデートのきっかけとして活用できるとよい。場面を見たことがあるとイメージしやすいため、まずは、互いの保育や授業を見合い話し合うことが大切である。 ・互いを見合い話し合う場として、異校種の経験研修を実施し、資料の周知を図るとよい。(周知をターゲットにする。)一度経験すると、資料と実際からイメージが沸く。幼児期の遊びからつくられる資質・能力が小学校の教科につながっていることや、幼児期の学びがあって小学校がスタートすることを意識することで、いずれ授業改善が図られることになっていくと思われる。 					
4 今 後 に つ い て	(1) 開催日時及び場所について 令和6年9月12日(木)午前中 まつばこども園 (2) 内容 <ul style="list-style-type: none"> ・保育参観 ・参考資料の提案及び協議 				